

免疫関連有害事象対策のためのチーム医療推進プログラム

Immuno-Oncology ワーキンググループ

ワーキンググループ長： 東 光久

副ワーキンググループ長： 三浦 理

赤松 弘朗、伊澤 直樹、磯貝 佐知子、上野 真行、親川 拓也、久代 航平、小長 光明子、米谷 頼人、佐藤 栄一、田尻 和子、土屋 裕子、長崎 礼子、林 秀敏、藤原 季美子、松井 礼子、村上 恵理子、吉野 真樹

【背景】

2014 年に悪性黒色腫に対してニボルマブが上市されて以来、多種多様な IO 製剤の上市と共に、様々ながん種、それぞれの治療ラインへの適応拡大が顕著であり、大学病院やがん専門病院のみならず、全国の大小さまざまな病院で IO 製剤が多くの患者さんに届けられ始めている。今後、TIGIT、LAG-3 などの免疫チェックポイントに対する新規薬剤、さらには高率でサイトカイン放出症候群や ICANS などの重篤な病態になり得る irAE を惹起する抗 BiTE 抗体の普及も予想されており、施設をあげた irAE 対策はがん治療にかかわる各施設の喫緊の課題である。

IO 製剤で引き起こされる免疫関連有害事象 (irAE) は早期発見と早期の診断、それに伴う適切な対応が必要であり、対応の遅延が重篤でかつ致命的な状況に発展する場合もある。現在、irAE の対策・治療に対しては日本臨床腫瘍学会 (JSMO) のガイドラインの他、ASCO/ESMO や NCCN のガイドライン等が発出されている。しかしながら、IO 製剤使用全体に対する多職種連携を含めた施設体制について言及したガイドラインやステートメントは存在しない。結果として IO ががん治療に普及し始めて約 10 年が経過し、多くのがん腫、また早期がんへの適応拡大が進んでいるものの、未だ体制も確立できず、対応マニュアル等の構築も進まずに系統だった対策が出来ていない施設がほとんどである。日本がんサポーターブケア学会 (JASCC) の Immuno-Oncology ワーキンググループ (IO-WG) では、irAE 対策にあたる各職種における「診療における注意点」にフォーカスし、多職種がそれぞれの視点で協力し IO 投与患者の診療に

あたるためのコンセンサスレポートの作成を計画し準備を始めている。体制が定まっていない施設においては、作成したコンセンサスレポートを軸とした教育コンテンツ、グループワークにより多職種チームへの教育、啓発を行うことで患者対応の向上が期待できる。

【プログラムの目的】

がん免疫療法（IO）製剤で引き起こされる免疫関連有害事象（irAE）に対してはその対策にあたる多職種の教育と連携が重要であるが、各業種の具体的な役割などについて言及したガイドラインやステートメントは存在せず、未だ多くの施設は irAE 対策に頭を悩ませている。本教育事業は、JASCC の Immuno-Oncology ワーキンググループ（IO-WG）によりコンセンサスレポートを作成し、それを軸として多職種への教育、啓発を行い、irAE 対策チームの編成・体制整備を支援することで、irAE 対策のための体制の均てん化を目的とする。

【プログラムの概要】

本プログラムは2年計画で実施する

1年目

① IO 製剤使用に対するコンセンサスレポートの作成

医師、薬剤師、看護師の視点より、irAE の早期発見、早期診断に対する事項や患者のモニタリング体制、保険薬局や他の医療機関の連携体制等の項目を網羅し、診療の注意点を中心にコンセンサスレポートを作成する。

② コンセンサスレポートに基づく教育資料の作成

コンセンサスレポートを軸とした、医師、薬剤師、看護師それぞれを対象とした e-ラーニング教育コンテンツの作成を行う。コンテンツは本プログラムではワークショップ参加にあたっての教育資料として活用するとともに、将来的には JASCC における教育資料としての運用を目指す。

③ コンセンサスレポートの周知徹底のための Web 講演会の開催

医師、薬剤師、看護師を対象にコンセンサスレポートの内容に基づく irAE チーム医療についての啓発を目的とした Web 講演会を開催する。

受講者にアンケートをとり、希望者を中心に 2 年目のワークショップ開催地域・参加施設を選定する。

2年目

① irAE 対策チーム編成・体制整備のためのワークショップ

ワークショップ 1 回あたり参加者は 4-5 人/施設 × 4-5 施設 x 年 2 回開催予定
(20-25 人/回)

医師、薬剤師、看護師を中心として多職種が参加するワークショップを参加希望の多い地域ベースで開催し、様々な資料（同意説明文書、チーム支援資料等）の作成支援のほか、各施設の状況や地域性を鑑みた実現可能な体制の作成支援を行う。

② irAE 対策チーム編成についてのフィードバックと問題点の抽出

ワークショップに参加した施設とチームメンバーを対象として、実際の運用状況、改善点などのフィードバックを受け、当該チームのさらなる改善に寄与するとともに、次年度以降への改善点として教育コンテンツ、ワークショッププログラムの見直しを図る。